

有限会社 沼南ファーム 代表取締役 橋本茂 / 橋本英介

数年後には圃場面積200ha 親子で地域の経営に挑戦する

千葉県柏市、国道を走って市役所を過ぎると一面に水田が広がる。

東武東上線の沿線という都市近郊に立地しているが、田舎の風景だ。

「土地を集積するのが困難だ」「耕作放棄地の復活は大変だ」という声に

93haでコメと麦を作っている親子は「やります」と答える。

毎年面積が増えている(有)沼南ファームの橋本茂氏、息子の英介氏に、

現在抱えている問題と将来の展望について語っていただいた。

社長と従業員の役割分担 家族で会社を運営する

昆吉則 (本誌編集長) 橋本英介さ

んには2011年1月に弊社が主催

したT P Pに関するシンポジウム

(弊誌10・11月号に採録を掲載)に

ご登壇いただきました。稲作農家

の立場で明確にT P P参加が我が国

の農業改革にとってのチャンスであ

るといふ農業への熱い思いを話して

いただきました。あの時は英介さん

方針があり、一方、英介さんに意見

がないというのではなく、社長の考

えを理解した上で自らの役割を果た

そうとしているのが見えるのです。

茂 この辺りのうちが関わっている

200ha位の地域で30代の田んぼを

やる後継者はせがれ一人しかいませ

ん。それ以外では一番若い農家が55

歳。あとは年金農業ですよ。おじい

ちゃんとおばあちゃんがお金あるか

らトラクタをやるんですね。とこ

ろが、サラリーマンやっている人た

ちは、自分のお金を持ち出してまで、

田んぼやらないんで、あとこの5年

くらいが過渡期になりますよ。数年

後には、間違いなく沼南ファームが

その200haを全て面倒見なければ

ならなくなります。我が家の4人の

従業員だけでなく地権者への責任を

含めて、橋本家ではなく公的な企業



築30年の乾燥施設。100ha規模の乾燥調整はここで行なわれる。刈り取った日に乾燥、粉すり、袋詰めまで終える。



手作りのもみ穀用倉庫。3haしか入らないので、秋になれば毎日搬出が欠かせない。

としてその社会的責任を果たすだけです。もちろん、親子より社長を支える従業員としてよくやってくださいますよ。

昆 ところで、英介さんの就農というより沼南ファームへ就職したきっかけはどうなのですか。

英介 子供時代から父の姿を見ていて農業に対する可能性は感じていて、ゆくゆくは農業をやりたいと思っていました。野球生活を終わって家に戻ると、地域に農産物の直売所ができるから、流通の裏側を勉強したいとイトーヨーカ堂でパートをして来いと言われたんです。それで、ヨーカ堂に2年くらいパートで勤めていました。ちゃんと沼南ファームでやり始めたのは30歳の時です。それで今、直売所に役員として参加して月の内10日間は直売所に出ています。ヨーカ堂での体験は直売所のことではなく経営を考える上でもとても勉強になりましたね。その体験を含めて、事業化された農業経営に挑戦することに凄く可能性を感じるし、今がチャンスだとも思います。良い時期に農業を始めたんじゃないかなと。

昆 厳しい事業管理のもとで目的意識を持って働いたのは、社会的責任を感じられる良い体験でしたね。ところで、お父さんの頃はとうだったのですか。

茂 私の時代は小さいうちから「農業やりなさい」って育てられたものです。また、自分でも農業やろうと思っていましたよ。でも学校を出てしばらくは親戚の経営する土建会社や鉄工所だとかに頼まれて行っていました。そこで技術を覚えましてね。

英介 あのガレージは親父が作ったんですよ。

茂 車庫は図面なしで、私の頭の中で作ったんです。全部現場で溶接したのでボルトがないんですよ。頼むと33坪あるので600万円位はかかったでしょうが、100万で済みました。

儲かっていた行商から ライスセンター経営へ

昆 実際に農業を始めたのは？

茂 5年くらい外で勤めていたから、25、26歳くらいですかね。その頃、両親は2トトラックで行商していたんです。1週間にいくところが全部あって、1日の売上げが10万円位。夏だけで1000万円以上も売り上げていました。40年前のことでトマトだったその当時も今と同じで1袋300円。親父の代の10年間くらいは相当お金残りましたよ。

昆 なぜ儲かる行商を継がなかった



トラクタもコンバインも必ず4t回送車で運搬する。クローラもホイールも長持ち。65馬力2台と100馬力1台のパワクロが並ぶ。

のですか。

茂 親父やお袋が生き残っているうちは野菜をつくれるけれど、将来は無理だと思いました。それでライスセンター組合を作ったんです。ちょうど30年前、30歳の頃です。地域には農業後継者がおらず、ほとんどの人はもう自分ではコンバインを買えない、それで、もう一人の仲間と二人で9haくらいですからライスセンター組合とは名ばかりの小規模なものでした。やがて設備が足りず投資をしようと思ったのですが、仲間は借金をする農業は嫌だということで独立したのが平成6年です。今ある乾燥施設の始まりはその頃です。その後、増設をしてきましたが、もうどうにも限界が来ているので、新しい



耕作放棄地はまず草刈をして、野焼きする。水が入ると腐るので、2年目には収穫できる田んぼになるという。

乾燥調製設備を装備することが私の代の最後の仕事だと思っていますよ。

昆 その当時の補助金を含めた投資額ってどのくらいですか？

茂 コンバインも含めて5千万円くらいだったと思います。

昆 ご苦労されているという乾燥調製施設をぜひ見せてください。

茂 狭いでしょう。昔は農地法の関係で農振地区には建築物がたてられなかったからこんな場所しかなくて。悔しいことにこの乾燥施設ができて2年後に田んぼの中に施設を建てることもOKになったんです。

昆 乾燥機は何台ですか？

茂 45石が10台です。最初の5台(45石)は補助金で建てたものなん



橋本茂

■プロフィール (はしもと・しげる)

1951年生まれ。千葉県立印旛高校を卒業後、親戚の建設会社で働き、大型特殊免許取得する。20歳で就農。家族で野菜を生産し、都内へ行商に出ていた。35歳のときに旧沼南町鷲野谷農業機械利用組合を設立。その後、43歳で独立し、農業生産法人・有限会社・沼南ファームを設立。作業受託を含めて水稲80ha、小麦16.5ha。年商8,000万円。



橋本英介

■プロフィール (はしもと・えいすけ)

1974年生まれ。野球少年として育ち、野球部推薦で東京農業大学に進学する。卒業後、実業団野球選手として兵庫県尼崎市の株式会社田村コピー入社。1999年、野球を離れ、イトーヨーカ堂金町店にパート勤務。この間に物流の裏側を学び、2002年に28歳で就農。現在、9年目。2002年より道の駅しょうなん農産物直売所・株式会社ロータス取締役。

ですけど、お金もなかったたので背の高い建屋も作れず、それで、あとは自前で何度か建て増して機械も増やしてきました

昆 今、この設備で処理している面積どの位なんですか？

茂 稲刈りを含めると1000ha近いですね。

昆 それをこの設備で？

茂 最悪ですよ、秋は。

昆 乾燥してすぐに並んでいる補助タンクに移すわけですね。

茂 この2つは玄米貯めなんですよ。貯蔵ビンが無いので、乾燥設備の回転率を上げるために乾燥した先から初すりまでやってしまい、玄米

ホッパに入れ、その日のうちに袋詰めまでやってますよ。

昆 それは大変だ……。

茂 45石で約6反分が張りこめるのですが、それが10台。最大で一日に6haの処理量です、ハハハ。平均すると一日に4ha分、だから300〜400俵を2台でもみ摺りします。

昆 すると初穀の始末も必要になりますね。

茂 初穀貯蔵の部屋は施設の脇に自作しました。でも、スペースの都合からその容量は3ha分程度。だから、下に排出口を作って1日に何回か近所の梨屋さん、イチゴ屋さん配って回るんですよ。

英介 本当にフル稼働です。秋になるとコンバインのオペレータが4人、ダンプの運転手それに乾燥施設の作業員全員で15人位、施設内だけでも10人位が文字通りごった返しています。

昆 収穫の期間は？

英介 お盆過ぎから早生は始まるんですけど、それはごく一部で、コシヒカリは9月5日くらいから刈り始めます。この辺ではコシヒカリの比率が90%位ですから、なおのこと作業が集中します。

昆 最初のライスセンターとしての受け入れ規模はどんなものどの程度だったのですか？

茂 20年前は30haくらいで、乾燥機5台で余裕があったんです。山本製作所の遠赤外を導入してからは非常に乾燥の上がりが多いですね。それに今度作る時には建屋の外に投入ホッパをつけて仕切らないとね。今はダンプ1回ではいけないので、そのたびにホコリで大変なんです。従業員の働く環境も考えていかないと。

英介 コメの流れ方、分かりますか？

茂 10台の乾燥機からまず左右2個ずつのホッパに乾燥粉が入り、もみ摺り機に行きます。もみすり機から昇降機で上げて、横のベルトコンベアで玄米貯めに。これも全部オヤジが自分で作ったんです。



昆 いや、これは本当に大変ですね。
茂 大騒ぎです。本来は白で白米販売なんてしたくないんですよ。だって一次産業ですから、玄米を売って食べられなかったら駄目ですよ、本来は。

昆 それは、正しい考えですよ。精米に一年中ひとり付きつきりになっちゃうんですよ。だったらその一人を田んぼにかけた方がいいわけですよ。

茂 何とかこの2〜3年のうちに別の所に150〜200ha規模のライスセンターを建てたいんです。

昆 大きくなると人手も減って能力も上がるってことですね。コストダ

ウンになりますよ。刈りながら玄米を出していくという人は少ないけど、この設備で100ha近くやるとなるとしようがないのでしょね。規模拡大の制約になるだけでなく問題ですね。

茂 秋は本当に短いんで。

英介 ドライビンが一個あれば違うのですけど。

昆 ビンがあれば、そこに入れて精米で売ることも増えるのでしょ。

茂 病院関係なんか白米の販売先はいくらでもあるんですけど、倉庫がないんで、もったいないですけど断っているんです。

機械と設備があれば いくらでもやれます

昆 とここで、耕作放棄地の復田をご自身でのほ場整備をあわせてやっているって聞いたのですが。

茂 放棄されているだけでなく段差があり湿田でもあるのですが、良い米の取れる田んぼです。

英介 昨日、野辺焼きをやっちゃったんで黒くなっています、その上の2枚は去年自分で田んぼにしました。うちにはレーザーがないもんで、ユニボとキャリアダンプで土を動かすんです。高いところと低いところの面積を計算すればできますよ。

昆 ここは土がいいみたいなので深土が出てきてもそれほど影響がないのでしょね？

茂 そうですね。それは良いのですが、排水をよくすることの方が問題ですね。この上の2枚は去年コンバインが入れないくらいだったんですけど、暗渠も入れて直しました。湿田は水はけは悪いけど一等米比率は高くて、腹白が出ないですよ。

昆 今年の場所は段差が1m位ありそうですね？

英介 だから中畦を作って4反6畝を2反ちよつとずつに分けた2枚にしようかと思っています。レーザー欲しいんですよ。

茂 ありがたいことに遊休地の解消に国からお金が出るんですよ。田んぼは2年目でかなり均一ちゃんと作れますからいいですよ。

昆 英介さんが持っているのは圃場マップですが、現在の80haで一番遠いところでどこまで行くのにどれくらいかかりますか？

英介 手賀沼の反対側の印西で、10〜15分くらいですね。全部4t車に機械を載せて行くんで、大したことはないですよ。社長の頭の中に入っているものを従業員にもわかるように作ったんです。これがあれば新しい圃場の場所も分かるんです。

昆 役人や学者たちはこんな段差が

あったら農民には対応できないと思って、無駄な金を土木業者に払っていますよ。

茂 耕作放棄地だけでなく、壮大な税金を使った土地改良だって、経営者がいなくて草ぼうぼうの所が沢山ある。我々にまかせてくれれば、無駄な税金を使うこともないんですよ。小さな農家に戸別所得補償なんかばらまいても無駄です。そんなことやらないなら我々がレベラーなどの機械を買うのに補助をつけるほうがずっと安上がりなんです。

昆 土地集積だって、困難だってことになってますけど、府県で家族経営で25〜30haやっている人は当たり前前にいますよ。

茂 国や県、町の担当者とも随分話してきたけれど、現場を見ないんですよ。彼らは。うちで一番ネックになっているのは、施設と機械の投資ですね。結局、設備とトラクタがあれば、いくらでもできます。

昆 行政には余計なことをしないで励ます政策をやってくださいと。条件が良からうが悪からうが、チャレンジする人が伸びるんです。

茂 ライスセンターを建てるところまでは頑張つて、せがれに譲りますけど、まだトラクタには乗り続きませんよ。

昆 ありがとうございます。